



Data

監督・脚本: パート・レイトン
 出演: エヴァン・ピーターズ/パリー・コーガン/ブレイク・ジェナー/ジャレッド・アブラハムソン

■ショートコメント■

◆20歳前後の大学生が自分の人生を考え、「俺には何か特別な未来があるはず！」と思いつくのは当然。もっとも、そう思いつつ、『ソーシャル・ネットワーク』(10年)で描かれた、米フェイスブックを創業したマーク・ザッカーバーグ最高経営責任者(CEO)(『シネマ26』18頁)等の例外を除いて大多数は“普通の道”を歩んでいくものだ。ところが、ケンタッキー州トランシルヴァニア大学の大学生ウォーレン・リブカ(エヴァン・ピーターズ)とスペンサー・ラインハード(パリー・コーガン)、さらに、チャールズ・T・アレン2世(ブレイク・ジェナー)とエリック・ボーサク(ジャレッド・アブラハムソン)は、何と何と・・・。

◆本作のチラシには、『オーシャンズ11』のような実話」として本作を次のとおり紹介している。すなわち、

**狙うは、図書館に眠る時価12億円のヴィンテージ本。
 その本が手に入れば、オレたちの人生は最高になる。**

アメリカ・ケンタッキー州で退屈な大学生活を送るウォーレンとスペンサーは、自分が周りの人間と何一つ変わらない普通の大人になりかけていることを感じていた。そんなある日、ふたりは大学図書館に時価1200万ドル(およそ12億円)を超えるオーデュボンの巨大な画集「アメリカの鳥類」*が保管されていることを知る。「その本が手に入れば、莫大な金で俺たちの人生は最高になる」そう確信したウォーレンとスペンサーは、大学の友人を巻き込み、『オーシャンズ11』『スナッチ』などの犯罪映画を参考に強盗計画を立て始める。

事件の犯人たちが劇中に登場。映画史上類を見ない手法で描かれたハイブリッド・クライム・エンタテインメントが誕生。

衝撃の実話の映画化を手掛けたのは、ドキュメンタリー映画『The Imposter』で英国アカデミー賞最優秀デビュー賞を受賞し、長編ドラマとしては本作が初監督作品となるバート・レイトン。事件を起こした本人たちを劇中に登場させ、ドキュメンタリーとドラマのハイブリッドにスタイリッシュな映像と音楽を盛りこみ、センセーショナルな作品を誕生させた。そして、このかつてない物語に挑むのは今大注目の実力派若手俳優たち。『X-MEN』で一躍有名になったエヴァン・ピーターズ。『ダンケルク』『聖なる鹿殺し』で唯一無二の存在感を見せつけたバリー・コーガン。そして『エブリバディ・ウォンツ・サム!!』のブレイク・ジェナーに、Netflix のドラマ『トラベラーズ』のジャレッド・アブラハムソン。本能のままに突っ走る4人のアメリカン・アニマルズの強盗計画は果たして成功するのか。

◆『オーシャンズ』シリーズはプロの“技術の冴え”が秀逸だったが、本作の“犯行決行日”の姿を見ていると、アレレ……。今ドキの若者たちの知能レベルから根性の据え方まで、何と情けない！これでは、いくら綿密な計画を立てても、その成功など、とてもとても……。

◆1980年代の日本人は「エコノミック・アニマル」と呼ばれたが、これは、恐怖感と共に若干の畏敬の念が含まれていた。しかし、バート・レイトン監督は、本作の若者たちを「アメリカン・アニマルズ」と表現したが、私に言わせれば、彼らは単なるバカ！4人とも懲役7年の実刑を終えて、今はそれぞれまともな(?)人生を歩んでいるそうだが、そんな物語を映画にして一体何の価値があるの？

2019（令和元）年6月4日記